

## 1-2 日本思想史

### 研究・教育活動の概要と特色

日本思想学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史研究室は、博士後期課程までを持つこの分野では国立大学法人中の唯一の研究室として、大正12年の開設以来、一貫して日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数の優れた研究者を国内外に送りだしてきました。教育界などでも多くの修了生が活躍しています。

本研究室では授業のほかに、定例研究会や史料講読会の開催、学術雑誌の刊行など、大学院生を主体とする活発な研究活動が行われています。また教員が毎年国際学会で発表するなど、国内外の大学・研究機関・研究者との学問的・人的交流も、年々盛んになっています。

### I 組織

#### 1 教員数 (2013年9月末現在)

教授： 1

准教授： 1

講師： 0

助教： 1

教授：佐藤 弘夫

准教授：片岡 龍

助教：富樫 進

助教：森川 多聞 (コンピュータ室)

#### 2 在学生数 (2013年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
---------------	-----------	-------------	-------------	------------

29	0	11	16	1
----	---	----	----	---

### 3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	9	1	0
10	10	5	3
11	7	0	2
12	8	4	2
13	1	0	0
計	35	10	7

\*2013年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	1	0	1
10	3	0	3
11	2	1	3
12	3	1	4
13	0	0	0
計	9	2	11

\*2013年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

富樫進、2009年度、『鑑真門下における護国仏教の研究——政治思想との関わり  
において』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、准教授・片岡龍、准  
教授・佐倉由泰

水野雄司、2010年度、『本居宣長の思想構造』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、准教授・片岡龍  
鈴木啓孝、2010年度、『陸羯南と原敬—明治青年の思想形成と日本ナショナリズム—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍  
森新之介、2010年度、『摂関院政期思想史研究』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 鈴木岩弓、准教授 片岡龍  
高橋博巳、2011年度、『文人の世紀』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、教授 佐倉由泰  
森川多聞、2011年度、『20世紀初頭における「個人」と「集団」の思想——旧制  
第一高等学校に思想形成した人々の「集団」へのもどり方』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍  
葛睿、2011年度、『西村茂樹の思想的研究— 学問・宗教そして道徳』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍  
中嶋英介、2012年度、『近世武士道論研究—山鹿素行と大道寺友山を中心に』

審査委員：教授 佐藤弘夫、教授 佐倉由泰、准教授 片岡龍  
高橋恭寛、2012年度、『近世における「学問」の誕生—中江藤樹の教導思想—』

審査委員：教授 佐藤弘夫、教授 三浦秀一、准教授 片岡龍

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	3	2	2	1	8
10	10	3	0	5	18
11	10	5	6	1	22
12	8	5	0	3	15
13	2	5	2	0	10
計	33	20	10	10	73

\*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	2	12	5	0	19
10	8	10	9	2	29

11	10	18	6	0	34
12	3	7	12	2	24
13	2	2	6	0	10
計	25	49	38	4	116

\* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

研究会については概数。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

中嶋英介「武教への道—山鹿素行の修養論」『文化』第73巻1・2号、2009年)

中嶋英介「〔翻刻〕「古事記講義(序文)」『季刊日本思想史 特集—村岡典嗣：新資料の紹介と展望』74号、2009年(富樫進と共著)

中嶋英介「〔翻刻〕村岡典嗣「古事記序文講義」『日本思想史研究』41号、2009年、(本村昌文との共著)

中嶋英介「【資料紹介】村岡典嗣「仙台の吉利支丹について」」『東北大学史料館紀要』5号、2010年(本村昌文との共著)

中嶋英介「【書評】竹村英二著『幕末期武士/士族の思想と行為—武人性と儒学の相生的素養とその転回』」『日本経済思想史研究』10号、2010年

中嶋英介「大道寺友山『武道初心集』考」書物・出版と社会変容9号、2010年  
森川多聞「安倍能成の「個人主義」」『동북아 문화연구 제 19 집 (東北亜文化研究 第19号)』韓国・東北アジア文学学会、2009年6月。

森川多聞「天野貞祐の規範意識」『日本思想史学』42号、日本思想史学会、2010年9月。

岡安儀之「新聞記者の誕生——福地源一郎の自己認識を中心に——」『日本思想史研究』44号、東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室、2012年3月。

森新之介「撰関院政期における歴史思想——末代観と末法思想の比較を通して——」、『日本思想史研究』第41号、2009年。

ニネット・サチコ・ペーチュ、森新之介(共訳)マーク・テーウェン(著)「神道(ジンドウ)と神道(しんとう)の成立についての比較考察」、『日本思想史研究』第42号、2010年。

森新之介「法然房源空の二門判と二行判——その能否と難易、勝劣について——」、『宗教研究』第366号、2010年。

森新之介「法然房源空の思想形成過程——その凡夫意識と自行志向について——」  
『日本思想史研究』第43号、2011年。

葛睿「西村茂樹における神道観——国民道德の基礎をめぐって——」 『宗教研究』第368号、2011年6月。

高橋恭寛「晩年の中江藤樹における修養論の一側面——対算と慎独をめぐって——」  
『日本思想史研究会報』27号、日本思想史研究会（京都）、2010年3月

高橋恭寛「中江藤樹による初学者への教示」 『文化』74号1・2号、東北大学文学会、2010年。

高橋恭寛「中江藤樹の学問——独学と講論の間——」 『文藝研究』第172号、2011年9月。

高橋恭寛「中江藤樹における「持敬図」変容の問題」 『研究東洋：東日本国際大学東洋思想研究所・儒学文化研究所紀要』第2号、2012年3月。

高橋恭寛「徳川期儒者における「立志」教示の一展開——中江藤樹を中心として——」  
『次世代人文社会研究』第8号、2012年3月。

高橋恭寛「中江藤樹の福善禍淫論再考」 『日本思想史学』第44号、2012年9月。

吉川裕「護園学派における交遊と「楽」——服部南郭を中心に」 『日本思想史研究会会報』28号、2011年

吉川裕「伊東藍田と反徂徠——『作詩志毅』を中心として——」 『日本思想史研究』44号、2012年3月

アントニウス・プジョ「新渡戸稲造の神道観」 『日本思想史研究』第43号、2011年。

Morris Jonathan 'Issues in Constructivism and Comparative Research from a Religious Studies Perspective' (『公益学研究』第11巻第1号, pp72-79, 2011, 査読付き論文)

Morris Jonathan 【翻訳】 Hikino Kyōsuke "Hōnen" and "Shinran" in Early Modern Jōdo Shinshū' 'The Eastern Buddhist' NS42-1, 2011.

Morris Jonathan 【翻訳】 Tanigawa Yutaka 'No separation, No clashes: An Aspect of Buddhism and Education in the Meiji Period' 'The Eastern Buddhist' NS42-1 2011.

Morris Jonathan 'Philosophy, Theory and Case Studies in Buddhist Materiality' UTCP Graduate Conference 2012 Practicing Japanese Philosophy Mind and

- Activity 紀要 (東京大学)、2012年2月。
- ジョナサン・モリス 「『弘智法印御伝記』と即身物の研究」 (『宗教研究』第371号、2012年3月)
- ジョナサン・モリス 「書評: Karen M. Gerhart ‘The Material Culture of Death in Medieval Japan’」 (『年報日本思想史』第11号、2012年3月)
- Morris Jonathan 「‘Special Issue: Gender and Constitutional Citizenship’ Workshop Overview」 GEMC journal no.6 (英文) 2011年度
- ジョナサン・モリス 「Corpora incorrupta に関する思想史的考察」 (『宗教研究 (七十一回学術大会紀要特集)』2012年)。
- Morris Jonathan 「【翻訳】 Yanagihara Toshiaki ‘Onmyō dō in the Muromachi Period’」 ‘Japanese Journal of Religious Studies’ (刊行予定)
- 片岡龍・ジョナサン・モリス・李月珊 (共訳) ジェームズ・マクマレン (著) 「荻生徂徠・松平定信と寛政期の孔子崇拜」 (『日本思想史研究』45、2013年度刊行予定)。
- 村上麻佑子「網野貨幣論の到達と限界」『検証 網野善彦の歴史学』、2009年
- 村上麻佑子「古代日本における食国の思想」『日本思想史学』第44号、2012年
- 村上麻佑子「古代の時間認識からみる統治の正当性の変遷」『日本思想史研究会会報』29号、2012年刊行予定。
- 小嶋翔「明治期与謝野晶子における自己認識の変容」『日本思想史学』42号、2010年9月)
- 小嶋翔「大正初期における与謝野晶子の国民意識——母性保護論争前史として」『日本思想史研究』43号、2011年3月。
- 小嶋翔「何者でもない者、何者かでありたい者、「自分」—らいてう平塚秋子の初期思想闘争—」『文藝研究』第174集、日本文藝研究会、2012年9月。
- 小嶋翔「吉野信次の思想形成—旧制第一高等学校時代を中心に—」『吉野作造研究』第9号、吉野作造記念館、2013年4月。
- 小嶋翔「与謝野晶子の「経済的独立」論再考—第一次大戦下の生活意識と個人の倫理的独立」『歴史』第121輯、東北史学会、2013年10月 (掲載予定)
- 島田雄一郎「「敬」に出会い、「敬」に学ぶ」 (『公共的良識人』第241号、平成23年12月1日発行、京都フォーラム事務局・『月刊公共哲学』第14号、2012年2月1日発行、東亜古典研究所、韓国語版)
- 島田雄一郎「「共同体」から「共働態」へ—「与他共楽」の理念—」 (『月刊公共

- 哲学』第15号、2012年3月1日、東亜古典研究所、韓国語版・『公共的良識人』第246号、平成24年5月1日発行、京都フォーラム事務局)
- 宣芝秀「「御救」から「御備」へ——松平定信「寛政の改革」にみられる社会安定策——」『日本思想史研究』44号、2012年3月。
- 油座圭祐「柳田民俗学の根底に流れるもの—「山人」の語を手掛かりとして—」『日本思想史研究』41号、2009年3月。
- 芹澤寛隆「日蓮聖人における「時」認識——御遺文・曼荼羅に見られる「年号」に対する意識を中心として——」（『仏教学論集』29号 立正大学大学院仏教学研究会 2012年3月発行）
- 芹澤寛隆「『本尊聖教録』外典部所収の文献と日蓮遺文について」（『印度學仏教學研究』61号 日本印度学仏教学会 2012年）
- 芹澤寛隆「日蓮における「類書」「金言集」」（『日本思想史研究』44号 2012年3月）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「近世庶民の「世界」像——節用集の世界図を中心に——」『日本思想史研究』第45号、2013年度刊行予定
- 李月珊「近世日本の積奠をめぐる思想の一実態——浅見綱斎を例として——」（『日本思想史研究』45、2013年度刊行予定）
- 片岡龍・ジョナサン・モリス・李月珊（共訳）ジェームズ・マクマレン（著）「荻生徂徠・松平定信と寛政期の孔子崇拜」（『日本思想史研究』45、2013年度刊行予定）。
- クラウタウ、オリオン「大正期における日本仏教論の展開——高楠順次郎の思想的研究・序説」『日本思想史学』第42号、2010年9月。
- クラウタウ、オリオン「十五年戦争期における日本仏教論とその構造——花山信勝と家永三郎を題材として」『佛教史学研究』第53号・第1号、2011年11月
- クラウタウ、オリオン「〈新刊紹介〉小川原正道編『近代日本の仏教者——アジア体験と思想の変容』」『近代仏教』第18号、2011年5月
- KLAUTAU, Orion. “TANIGAWA Yutaka. *Meiji Zenki no kyōiku, kyōka, bukkyō*” *Japanese Journal of Religious Studies*, 38/1, 2011
- KLAUTAU, Orion. “(Re)inventing ‘Japanese Buddhism’: Sectarian Reconfiguration and Historical Writing in Meiji Japan”. *The Eastern Buddhist* (new series), 42/1, 2011
- KLAUTAU, Orion. “The Field of ‘Religious Studies’ in Brazil”. *Pantheon: Journal for the*

*Study of Religions* (University of Pardubice), 8/1, 2011

- 船田淳一「南都の中世神話・神道説をめぐって——春日社・興福寺・貞慶を中心に——」（伊藤聡編『〈中世文学と隣接諸学3〉中世神話と神祇・神道世界』竹林舎、2011年4月1日）。
- 船田淳一「聖地における本地仏と儀礼—石清水八幡宮の愛染明王信仰—」（藤巻和宏編『聖地と聖人の東西—起源はいかに語られるか—』勉誠出版、2011年8月31日）。
- 船田淳一「中世神道における冥と顕——慈遍の著作を中心に——」（池見澄隆編『中世——冥・顕の精神史——』法蔵館、2012年3月）。
- 船田淳一「浄土宗と神仏習合——中世律宗の天照説話から近世浄土宗の天照説話へ——」（佛教大学総合研究所編『法然上人八〇〇年大遠忌記念 法然仏教とその可能性』法蔵館、2012年3月）。
- 船田淳一「書評 伊藤聡著『中世天照大神信仰の研究』」（『説話文学研究』47号、2012年7月）
- 船田淳一「中世の神祇・神道説と東アジア」（『説話から世界をどう解き明かすのか』笠間書院、2013年7月）
- 船田淳一「南都戒律復興における受戒儀礼と春日信仰の問題」（赤松徹真編『日本仏教の受容と変容』永田文昌堂、2013年7月）
- 船田淳一「中世巡礼をめぐる冥界と曼荼羅の問題」（『日本思想史学』45号、2013年9月刊行予定）

## (2) 口頭発表

- 中嶋英介「山鹿素行の教化論—「武教」の展開を中心に—」日本経済思想史研究会 全国大会 2009年6月7日 於大東文化大学
- 中嶋英介「大道寺友山『武道初心集』考」日本文芸研究会 研究発表会 2009年9月19日発表 於仙台電波工業高等専門学校
- 中嶋英介「山鹿素行にとっての威儀」茨城の思想研究会 水戸公民館 2010年3月
- 中嶋英介「武士道論研究の現在と山鹿素行」東北アジアにおける多文化共生の実態研究（分科会：東北アジアにおける伝統文化と思想） 中華人民共和国内蒙古自治区、2011年8月



- 森川多聞「天野貞祐の規範意識」日本思想史研究会 12 月例会、2009 年 12 月。
- 森川多聞「南原繁の秩序意識—『国家学会雑誌』上における論争を中心に」日本文芸研究会、2010 年 12 月。
- 岡安儀之「西南戦争以前における福地源一郎の言論活動—「国民」形成論を中心に—」（第 184 会メディア史研究会月例研究会、2009 年 5 月 30 日、日本大学三崎町キャンパス）
- 岡安儀之「福地源一郎の言論活動—史論を中心に—」（第 5 回仙台近現代史研究会、2009 年 6 月 19 日、東北大学）
- 森新之介「法然房源空の末代観と末法思想」、日本思想史学会、2009 年 10 月 18 日。
- 葛睿「西村茂樹の宗教観」日本文芸研究会第六十一回研究発表大会発表 2009 年 6 月
- 葛睿「近代における日中の知識人と宗教 —— 西村茂樹と梁啓超を中心に」台湾大学シンポジウム「東アジア儒学と日本の思想」 2009 年 9 月
- 葛睿「近代中国における国民道徳と宗教——章炳麟を中心にして——」,東洋大学, 日本宗教学会第 69 回学術大会, 2010 年 9 月 3 日～5 日
- 葛睿「明治初期における「国民」言説に関する一考察——西村茂樹を中心に—」、2010 年 11 月 6 日、日本思想史月例会口頭発表。
- 葛睿「国民道徳論と儒教——西村茂樹を中心に——」、2010 年 11 月 20 日、東アジアの思想と対話・日韓国際シンポジウム。
- アントニウス・プジョ,筆と剣—東南アジアにおける太平洋戦時下の日本文学者の関与について—、”The First International Symposium on “Language, Culture, and Globalization in Southeast Asian Countries”, アイルランガ大学、インドネシア,2008 年 12 月 11 日
- アントニウス・プジョ,新渡戸稲造『武士道』と明治時代のナショナリズム, 東アジア「武士道の研究」国際シンポジウム、北京日本学研究中心、中国,2009 年 2 月 15 日、
- アントニウス・プジョ,新渡戸稲造の神道観、日本思想史学会、東北大学、2009 年 10 月 18 日
- アントニウス・プジョ,若き新渡戸稲造の神道観、日本文芸研究会、福島大学,2010 年 6 月 20 日
- 高橋恭寛、「晩年の中江藤樹—慎独と対算について—」日本文芸研究会第 2 回研

- 究発表会、2009年12月
- 高橋恭寛、「慎独から対算へ—中江藤樹の修養論の展開」日本思想史研究会（京都）例会、2009年12月
- 高橋恭寛、「中江藤樹における修養論の多面性」奈良女子大学・東北大学合同研究会、2010年8月
- 高橋恭寛、日韓次世代学術フォーラム第7回国際学術大会、指定討論者（分科7[宗教・思想]）、2010年6月
- 高橋恭寛、「中江藤樹における福善禍淫論」日本思想史研究会（京都）例会、2010年12月
- 高橋恭寛、「中江藤樹『持敬図説』と四書」日本文芸研究会第六三回研究発表大会、2011年6月
- 高橋恭寛、「江戸初期における善書受容の一形態—中江藤樹を中心にして—」東北アジアにおける多文化共生の実態研究国際シンポジウム、2011年8月
- 高橋恭寛、「江戸儒者における「立志」教示の一展開—中江藤樹を中心として—」日韓次世代学術フォーラム 第8回国際学術大会（分科7[宗教・思想]）、2011年8月。
- 高橋恭寛「中江藤樹による『孝経』理解の再検討」日本思想史研究会（京都）例会、2011年11月。
- 高橋恭寛「闇斎学派における埋葬した身体について」東北心身形象研究会、2012年6月。
- 高橋恭寛「徳川前期における学問の普及について」厦門大学2012年「東アジアと日本学」国際シンポジウム、2012年7月。
- 高橋恭寛「徳川日本の儒学—中江藤樹を題材として—」「戦前期の帝国大学における研究体制の形成過程」シンポジウム（北京）、2012年9月。
- 高橋恭寛「徳川前期の学問観」蘭州大学日本語・日本文化研究会、2012年9月。
- 高橋恭寛「儒葬における身体と東北」東北心身形象研究会、2012年9月。
- 吉川裕「服部南郭の憂悲とその解消—「雑詩三首」「寐隠辯」を手がかりとして—」日本思想史学会大会、2009年10月、於東北大学
- 吉川裕「村井古巖について」駅長オススメの小さな旅&小さな旅行プラン"学び地蔵"合格祈願！「雲上寺」の特別見学&かまぼこ工場見学、2009年11月
- 吉川裕「『江戸名所図会』に表れた服部南郭—南郭受容の一側面」シンポジウム「近世の旅と名所」、2010年3月、於山形県立米沢女子短期大学

- 吉川裕「村井古巖ってどんな人？」第一回なみこしえんにち、2010年5月、於雲上寺
- 吉川裕「江戸文人の死生観—服部南郭を中心として—」タナトロジー研究会、2010年6月、於緩和ケアクリニック仙台
- 吉川裕「伊東藍田の当代批判—「名説」を中心に—」日本思想史学会大会、2011年10月30日、於学習院大学
- 吉川裕「護園学派における交遊と「楽」—服部南郭を中心として—」日本思想史研究会（京都）例会、2010年12月
- 吉川裕「「荻生徂徠の墓」の名所化」日本文芸研究会近世小研β「近世の世界へようこそ」2011年6月
- 吉川裕「護園学派における「不朽」の意義—服部南郭を中心として—」和漢比較文学会第30回大会、2011年9月
- 吉川裕「「荻生徂徠の墓」の名所化—近世中期から後期における墓所の名所化試論—」日韓次世代学術フォーラム 第8回国際学術大会(文科9[文化・芸術])、2011年8月
- 吉川裕「不朽の詩文と徂徠学—服部南郭を中心として—」日本文芸研究会平成23年度第2回研究発表会、2011年
- 吉川裕「江戸文人と墓所—荻生徂徠の墓の名所化—」近世の宗教と社会研究会米沢例会、2012年6月
- 吉川裕「江戸漢詩における「日常性」の獲得—徂徠学を出発点として—」日本思想史研究会7月例会、2013年7月
- 吉川裕「江戸文人の思想と行動（仮タイトル）」日中若手研究フォーラム、2013年9月、於 北京日本学研究中心
- ジョナサン・モリス「聖人のミイラ化と浄土思想について」（2009年4月25日、日本思想史研究会4月例会）
- ジョナサン・モリス「弘法大師入定説と往生伝文学について」（2009年10月、日本思想史学会2009年度大会）
- Morris Jonathan International Association of the History of Religions, at the University of Toronto, August 15-21, 2010 '*Pure Land Thought and the Legend of the Eternal Meditation of Kukai.*
- ジョナサン・モリス「弘法大師入定説の成立と展開について」（2010年12月、日本思想史研究会例会、於：立命館大学）

Morris Jonathan International Medieval Congress, at the University of Leeds

11-14 July 2011 '*Between Life and Death in Medieval Japan and Europe*'

ジョナサン・モリス 「『弘智法印御伝記』と即身仏の研究」 (2011年9月、日本宗教学会第70回学術大会)

Morris Jonathan 2012年2月 'Philosophy, Theory and Case Studies in Buddhist Materiality' UTCP Graduate Conference 2012 Practicing Japanese Philosophy Mind and Activity (東京大学)

ジョナサン・モリス 2012年6月 印度学宗教学会「ミイラにみる宗教の力—〈絆〉再考—」 (東北福祉大学)

ジョナサン・モリス 2012年6月 東北心身形象研究会「ミイラにみる宗教の力」 (東北大学)

ジョナサン・モリス 2012年9月 日本宗教学会第70回学術大会「Corpora incorrupta に関する思想史的考察」 (皇學館大学)

ジョナサン・モリス 2012年11月 東北文化研究会『弘法大師入定説再考』 (東北大学)

小泉礼子『近世往生伝』から見えてくるもの——古代の往生伝と比較して——。

介護と看取りのセミナー、2012年7月28日、於緩和ケアクリニック仙台。

村上麻佑子「古代日本における食国の思想」2011年度日本思想史学会大会、2011年10月、於学習院大学

村上麻佑子「『食国』・『食国天下』の思想構造についての検討」日本思想史研究会 (京都)、2011年12月、於立命館大学

村上麻佑子「食貨志からみる日本古代銭貨の意義」日本の経済思想——時間と空間の中で——、2012年3月、於上智大学

村上麻佑子「近世の死と看取りのかたち—近世往生伝を通して考える—」介護と看取りのセミナー、2012年7月、於緩和ケアクリニック仙台

小嶋翔「女流浪漫主義歌人の文明開化—明治四〇年代から大正初年にかけての与謝野晶子を題材として—」日本思想史研究会5月例会、2009年5月

小嶋翔「与謝野晶子の『文明』的人間観における国家の位相」日本思想史学会、2009年10月

小嶋翔「与謝野晶子の国民意識」日本思想史研究会4月例会、2010年4月

小嶋翔「第一次『明星』誌上における与謝野晶子の二つの『自我』」日本文芸研究会平成22年度第1回研究発表会、2010年9月

- 小嶋翔「何者でもない者、何者かでありたい者、「自分」——らいてう平塚明子の初期思想闘争」日本思想史学会、2011年10月
- 小嶋翔「近代思想史研究における「生活」概念史」日本思想史研究会7月例会、2013年7月
- 島田雄一郎「福沢諭吉における「理」と「情」—その道德観の一考察—」（日本思想史研究会6月例会、東北大学、2010年6月）
- 島田雄一郎「福沢諭吉における非合理的な「人情」への対処」（日本思想史学会2010年度大会、岡山大学、2010年10月）
- 島田雄一郎「「開国」としての「人間交際」—福沢諭吉による『西洋事情外編』訳述をめぐって—」（日本思想史研究会（京都）例会、2011年12月22日、立命館大学）
- 島田雄一郎「福沢諭吉における「交際」と「独立」—共働的存在としての人間理解—」（日韓次世代学術フォーラム第9回国際学術大会、2012年6月30日、一橋大学）
- 島田雄一郎「形なき「安心」—福澤諭吉の人生観に表れる宗教性—」（日本宗教学会第71回学術大会、2012年9月8日、皇學館大学）
- 島田雄一郎「小川原正道氏『福澤諭吉の政治思想』を読む」（福澤研究センターワークショップ、2012年9月24日、慶應義塾大学）
- 島田雄一郎、日韓次世代学術フォーラム第10回国際学術大会、指定討論者（2013年6月29日、東西大学校（韓国））
- 油座圭祐「柳田民俗学の根底に流れるもの—「山人」の語を手掛かりとして—」（日本文芸研究会大会、2009年6月）
- 芹澤寛隆「日蓮聖人における時間認識—御遺文・曼荼羅に見られる「年号」に対する意識を中心として—」第64回日蓮宗教学研究発表大会 2011年10月29日 於 身延山大学
- 芹澤寛隆「日蓮聖人における「類書」「金言集」」第25回法華宗教学研究発表大会 2012年2月7日 於 東京フォーラム
- 芹澤寛隆「『本尊聖教録』外典部所収の文献と日蓮遺文について」第63回 日本印度学仏教学会学術大会 2012年6月30日 於 鶴見大学
- 芹澤寛隆「日蓮聖人所覧の文献と御遺文の照合」第65回日蓮宗教学研究発表大会 2012年11月10日 於 日蓮宗宗務院
- 芹澤寛隆「日蓮における説話の受容について—人物に関する記述を手がかりとし

て一」日本思想史学会 2012 年度大会、2012 年 10 月 28 日 於 愛媛大学  
中港えり「埋葬方法から見る死後のゆくえ」（日本思想史研究会 7 月例会、東北  
大学、2011 年 7 月）

赤谷正樹「平安末期の死と埋葬—『平家物語』を中心に—」（日本思想史研究会  
6 月例会、2012 年 6 月 30 日、東北大学）

赤谷正樹「平家物語の思想史的研究—清盛の慈恵僧正再誕説話を中心に—」（日  
本文芸研究会平成 25 年度研究発表大会、2013 年 6 月 9 日、山形大学）

ポロヴニコヴァ・エレナ「近世後期の節用集における空間認識—『萬寶節用富  
貴蔵』を例に—」（日本思想史研究会 4 月例会、2012 年 4 月 28 日、東北大学）

楊妍「一九二〇年代日中両国におけるエレン・ケイの受容および影響について  
—『婦女雑誌』を中心に—」（日本思想史研究会 6 月例会、2012 年 6 月 30  
日、東北大学）

菊地敬「明恵上人の思想——思慕から捨身へ——」（日本思想史研究会 5 月例  
会、2013 年 5 月 25 日、東北大学）

若色智史「大橋訥庵における攘夷運動とその批判について—佐藤一斎門下を中心  
に—」（日本思想史研究会 5 月例会、2012 年 5 月 26 日、東北大学）

若色智史「幕末における儒学者の立場について—大橋訥庵・池田草庵を中心に—  
—」（日本思想史研究会 4 月例会、2013 年 4 月 27 日、東北大学）

柴田一郎「保田與重郎の文学論——ロマン主義から国学へ——」（日本思想史研  
究会 6 月例会、2013 年 6 月 15 日、東北大学）

安江哲志「西田幾多郎の気概——主権・国体・皇室・民族——」（日本思想史研  
究会 6 月例会、2013 年 6 月 15 日、東北大学）

クラウタウ、オリオン「村上専精と「日本仏教の特色」」第 18 回日本近代仏教史  
研究会、2010 年 5 月 22 日、於 国学院大学

クラウタウ、オリオン「村上専精と〈日本仏教の特色〉」第 18 回日本近代仏教  
史研究会、於國學院大學、2010 年 5 月 22 日

Klautau, Orion. “Religious Studies in Brazil: Modernity, Catholicism and the State”  
(Panel: Comparative Perspectives on the Development of ‘Religious Studies’) XXth  
IAHR Quinquennial World Congress, University of Toronto, 2010.8.19

Klautau, Orion. “(Re)inventing ‘Japanese Buddhism’: Murakami Senshō and the Writing  
of History” (Panel: Rethinking Japanese Buddhism: Kawaguchi Ekai and Murakami

Senshō) XXth IAHR Quinquennial World Congress, University of Toronto,  
2010.8.20

クラウタウ、オリオン「尊皇奉仏大同団とその思想的営為」日本宗教学会第 69  
回学術大会、2010 年 9 月 4 日、於 東洋大学

クラウタウ、オリオン「真宗とアカデミズム仏教学——東京（帝国）大学を中心  
に」（パネル「近代仏教と真宗の問題」）日本思想史学会 2010 年学術大会、  
2010 年 10 月 17 日、於 岡山大学

Klautau, Orion. “Shin Buddhist Faith and the Academic Study of Buddhism in Modern  
Japan” (Workshop: Defining Shin Buddhist Modernity) American Academy of  
Religion 2010 meeting, Atlanta (GA), 2010.10.31

クラウタウ、オリオン「十五年戦争期の日本仏教論——アカデミズムを中心に」  
（公開シンポジウム「十五年戦争と近代仏教」）日本近代仏教史研究会第 19 回  
研究大会、於淑徳大学、2011 年 6 月 4 日

クラウタウ、オリオン「フェシズム期における日本仏教論とその諸問題」（公開  
シンポジウム「仏教の誤読」）、日本文芸研究会・第 63 回研究発表大会、於  
東北大学、2011 年 6 月 11 日

KLAUTAU, Orion. “Buddhism in Essence and Manifestation? Perspectives on Shōtoku  
Taishi and Shinran during the Fifteen-Year War” (Panel Session “Modern Framings  
of Shin Buddhism: Historical, Literary and Institutional Adaptations of the 20th and  
21st Centuries”), Fifteenth Biennial Conference of the International Association of  
Shin Buddhist Studies, Kyoto, Otani University, 2011.8.5.

クラウタウ、オリオン「十九世紀末における仏教公認運動とその思想史的意義」  
2011 年度日本宗教史懇話会サマーセミナー、於京都エミナース、2011 年 8 月  
25 日

クラウタウ、オリオン「立憲国家の成立と近代仏教の思想的展開」第 73 回民衆思  
想研究会・東北近世史研究会（合同特別例会）、於東北大学、2011 年 8 月 27  
日

クラウタウ、オリオン「明治中期における日本仏教の言説的位相——仏教公認運  
動を中心に」（パネル「新しい近代日本仏教研究へ——自他認識・国民国家・  
社会参加」）、於関西学院大学、2011 年 9 月 3 日（『宗教研究』第 71 号に要  
旨掲載）

KLAUTAU, Orion. “Revisiting the ‘Three Nation’ Discourse: Early 20th Century

Narratives on the Distinctive Features of ‘Japanese Buddhism’” (Panel “The Construction of Religion between China and Japan, 1860s - 1930s”) Association of Asian Studies 2012 Annual Conference, Toronto (Canada), March 2012.

船田淳一「中世神道説における冥と顕——慈遍を中心に——」日本思想史学会  
2011年度大会、2011年10月30日、於・学習院大学。

船田淳一「日本中世の神祇・神道説と東アジア」、説話文学会 学会創設50周年  
記念大会シンポジウム 2012年6月23日、於・立教大学

船田淳一「中世巡礼の精神史——冥途・蘇生譚をめぐって——」、巡礼記研究会  
最終研究集会 2012年10月13日、於・神奈川県立金沢文庫

船田淳一「中世の巡礼における冥界と曼荼羅の問題」、日本思想史学会 2012年  
度大会シンポジウム 2012年10月27日、於・愛媛大学

船田淳一「白毫寺一切経縁起と死穢の問題—南都律僧による神祇信仰の特質—」  
日本宗教民俗学会平成25年度大会、2013年6月。

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

(PD) 2010年、受け入れ。

(DC) 2010年、採択。

(PD) 2011年、受け入れ。

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

#### 5-2 留学生の受け入れ状況 (※延べ人数)

年度	学部	大学院	計
09	2	6	8
10	2	6	8
11	1	8	9
12	0	7	7
13	0	8	8
計	5	35	40



## 6 社会人大学院生の受け入れ数（※延べ人数）

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	2	0	2
11	2	0	2
12	3	0	3
13	2	1	3
計	9	1	10

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

- 鈴木啓孝 東義大学校助教授 2010年度～  
先崎彰容 東日本国際大学東洋思想研究所准教授 2010年度～  
中嶋英介 蘭州大学外国語学院日語系外籍教師 2010年度～  
岡安儀之 西安外国語大学専任講師 2011年度  
昆野伸幸 神戸大学大学院国際文化科学研究科准教授 2011年度～  
大川 真 吉野作造記念館副館長 2011年度～  
富樫 進 東北大学大学院文学研究科助教 2012年度～  
長田麻美 西安外国語大学専任講師 2012年度～  
葛 睿 西安外国語大学准教授 2012年度～  
本村昌文 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 2013年度～  
桐原健真 金城学院大学文学部准教授 2013年度～  
森川多聞 東北大学大学院文学研究科助教 2013年度～

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

- 2009年度 高教員 1  
2010年度 研究所所員 1  
2011年度 高教員 2

## 8 客員研究員の受け入れ状況

- 2009年度 リサーチフェロー 李彩華（名古屋経済大学准教授）

2013 年度 リサーチフェロー 中嶋英介 (西安外国語大学)

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2009 年度 客員研究員 成海俊 (韓国・東明情報大学校)

## 10 刊行物

『日本思想史研究』 (年刊)

『年報日本思想史』 (年刊)

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

日本思想史学会事務局、2008 年 10 月～2011 年 9 月

日本思想史学会 2009 年度大会、2009 年 10 月 17・18 日

シンポジウム「関東大震災と近代日本のリーダー——渋沢栄一・後藤新平・吉野作造——」 (共催)、2013 年 3 月 9 日

東北大学日本思想史研究室・北京日本学研究センター研究交流会 (共催)、2013 年 9 月 20・21 日

日本思想史学会 2013 年度大会、2013 年 10 月 19 日・20 日

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009 年度

日本思想史研究会・東北大学臨床死生学研究会共催シンポジウム「人文学と現場との協業による臨床死生学の構築」

日本思想史研究室主催「シンポジウム 近世の旅と名所」 (於 米沢女子短期大学)

2010 年度

日本思想史研究会月例会 9 回開催

東北大学・奈良女子大学・東北芸術工科大学合同研究会

日本思想史研究会・仙台近現代史共催シンポジウム「近代日本の戦争と宗教」

2011 年度

日本思想史研究会月例会 4 回開催

日本思想史研究会・文芸研究会合同研究発表会 (9 月)

2012 年度

日本思想史研究会月例会 7回開催

2013年度

日本思想史研究会月例会 4回開催 (2013年9月末日現在)

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

日本思想史専攻分野は、2013年4月1日現在、学部生30名・大学院生27名・日本学術振興会特別研究員1名が所属しており、留学生も5ヶ国から8名を受け入れている。教員一人当たりの学生数としては、文学研究科の中でもトップを争う位置にある。

大学院入試において本専攻分野を志願するものはきわめて多く、ここ10年間は毎年前期課程・後期課程を合計して、専攻分野の定員のほぼ2~3倍に当たる6~9名の大学院生を受入れている。他大学からの志願者の割合がきわめて多いことも本専攻分野の特色であり、現在在籍する大学院生の7割以上が東北大学以外の出身である。

東北大学の日本思想史研究室は、日本における思想史研究の草分けともいえる古い伝統を持つが、その伝統に安住することなく、国内はもとより国際的な研究センターの役割を果たすべく、研究・教育のレベルアップを図ってきた。

2007年8月31・9月1日の両日には、本研究室の主催により、韓国からの出席者40名を含む国内外から100名以上の研究者の参加をえて、日韓共同国際シンポジウム「18—19C東アジア思想空間」を成功裏に開催することができた。2日には50名が参加して、平泉方面への見学旅行が行われた。

本専攻分野では授業の他に、大学院生の主催する数多くの自主的な読書会（史料講読会）がもたれている。本専攻分野の大学院生・OBが中心となって「日本思想史研究会」が結成されているが、同研究会は毎月第3土曜日に月例の公開研究発表会を開催し、大学院生や東北大学内外の研究者が発表を行っている。

大学院生には、日本思想史学会をはじめとする全国学会での発表を積極的に勧めている。従来あった研究室の雑誌『日本思想史研究』に加えて、新たに『年報日本思想史』を刊行し、院生の研究発表の場を拡げる努力を行っている。また定評ある全国学会誌への投稿を奨励しており、『日本思想史学』『日本歴史』『宗教研究』『日本史研究』『仏教史学研究』『歴史』『歴史評論』など、当該分野でよく読まれている雑誌に毎年論文が採用されている。

すでに教員は毎年海外の国際学会での発表を実践し、国際的な研究者のネットワーク作りを推進しているが、学生にも海外への研究留学を体験してもらい、それを生かしたスケールの大きな研究者の育成を目指している。

2005年4月には、教員佐藤弘夫が編集代表となり、本専攻分野のOBを中心とする研究者が主体となって、『日本思想史概説』（ミネルヴァ書房）が刊行された。この書ははじめての本格的な日本思想史の通史として国内外の注目を集め、韓国語・中国語への翻訳の準備が進められている。また2008年3月には、教員片岡龍が共同編集を務め、本専攻分野のOB6名の研究者を執筆陣に含む『日本思想史ハンドブック』（新書館）が刊行され、韓国語版も刊行され、現在中国語への翻訳の準備が進められている。

2012年からは、佐藤弘夫が編集委員の一人となっている『日本思想史講座』（全5巻、ペリカン社）の刊行が、2013年からは『岩波講座日本の思想』（全8巻）の刊行が開始され、いずれの企画においても本専攻分野の関係者が数多く執筆している。

### Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

佐藤弘夫「死者は山に棲むか—「日本人」の靈魂観・再考」『アジア遊学』124号、2009年。

佐藤弘夫「前方後円墳に宿るもの—祖霊観の系譜からみた」『死の機能 前方後円墳とは何か』岩田書院、2009年。

佐藤弘夫「近代の歴史学と立正安国論」『福神』14号、2010年。

佐藤弘夫「西行における「山」と救済」『西行学』1号、2010年。

佐藤弘夫「王都奈良の原像」『ならじあ2 東アジア共同体？』丸善、2010年。

佐藤弘夫「霊場と巡礼」『兵たちの極楽浄』高志書院、2010年。

佐藤弘夫「変貌する日本仏教観」『新アジア仏教史12』佼成出版社、2010年。

佐藤弘夫「「蒙古の調伏者」日蓮像の形成」『仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書』37号、2010年。

佐藤弘夫「本地垂迹の世界観」『日本の対外関係3 通行・通商圏の拡大』吉川弘文館、2010年。

佐藤弘夫「彼岸に通う音—神仏の音がノイズになるとき」『文学』11巻6号、2010年。

佐藤弘夫「中世における神観念の変容」『中世神話と神祇・神道世界』竹林舎、2011年。

佐藤弘夫「アマテラス神話の中世」『季刊東北学』27号、2011年。

- Sato Hiroo “Changes in the Concept of Mountains in Japan” *Cahiers d'Extreme-Asie*, 18号、2011年.
- 佐藤弘夫「彼岸に誘うカミ—日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン」『死生学研究』16号、2011年.
- 佐藤弘夫「中世の女性の結婚と仏教『アジア遊学』157号、2012年.
- 佐藤弘夫「祟り・治罰・天災—日本列島における災禍と宗教」『宗教研究』373号、2012年.
- 佐藤弘夫「親鸞の聖徳太子観」『中世文化と浄土真宗』思文閣出版、2012年.
- 佐藤弘夫「未来予知の作法」生活と文化の歴史学1『経世の信仰・呪術』竹林舎、2012年.
- Sato Hiroo “Kami that Beckon from the Far Shore” *Bulletin of Death and Life Studies*, 8号、2012年.
- 佐藤弘夫「総論 古代の思想」『日本思想史講座』1 古代、2012年.
- 佐藤弘夫「本地垂迹」『日本思想史講座』1 古代、2012年.
- 佐藤弘夫「天皇像の変容—頭の歴史学から冥頭の歴史学へ」『冥頭論』法藏館、2012年.
- 佐藤弘夫「中世「仏教」文明の形成と君主権」『「仏教」文明の受容と君主権の構築』勉誠出版、2012年.
- 佐藤弘夫「論理・精神・コスモロジー—日本の神・再考」『日本の哲学』13、2013年.
- 佐藤弘夫「江戸の怪談にみる死生観」『死生学年報』2013年度、2013年.
- 佐藤弘夫「記録される思想／流通する思想」『岩波講座日本の思想』2、2013年.
- Sato Hiroo “Where to next for Shinkoku thought?” *Contemporary Japan* 25, 2013年.
- Sato Hiroo “The Emergence of SHINKOKU(Land of Gods) Ideology in Japan” *Buddhism and Nativism*, Brill, 2013年.
- 片岡龍「14～19世紀の日本の学問の特色と、その変化」『茶山学』14、2009年.
- 片岡龍「荻生徂徠—「独学」の魅力—」『近代東アジア知識人の生と学問』成均館大学出版部、2009年.
- 片岡龍「伊藤仁斎之『孟子』論」『江戸時代日本漢学研究諸方面：思想文化篇』、国立台湾大学出版中心、2009年.
- 片岡龍「文学史」と「思想史」の融合」『中国—社会と文化』24、2009年.
- 片岡龍「伊藤仁斎の学問観—〈公共〉への参与と鑑識—」『公共する人間1 伊

- 藤仁齋』東京大学出版会、2011年
- 片岡龍「韓日思想架橋：伊藤仁齋と丁茶山の間から」『世界と相通する慶北正体性国際フォーラム予稿集①』韓国学振興院、2011年
- 片岡龍「旦暮遇之一荻生徂徠『学則』中の断層一」『人間と文化研究』18、東義大学校人文社会研究所、2011年
- 片岡龍「石田梅岩から考える「公共する」実践」『公共する人間2 石田梅岩』東京大学出版会、2011年
- 片岡龍「『論語』在日本的解説」『全球倫理秩序与東亜資源』第4届中韓日国際学術研究会予稿集、2011年
- 片岡龍「日本における『論語』の読まれ方 —伊藤仁齋（京都）・荻生徂徠（江戸）・照井一宅（盛岡）・下村湖人（佐賀）を中心に—」『東日本国際大学研究紀要』7、2012年3月
- 片岡龍「十八、十九世紀日本の精神資源の探求—松平定信・広瀬淡窓・山田方谷を中心に—」『ともに学びあう山田方谷・譚嗣同・崔漢綺 東アジアから世界へ』（樹福書院、2012年）
- 片岡龍「昌益から考え直す3.11以後の「自然」と「命」」『現代に生きる安藤昌益』（お茶の水書房、2012年）
- 片岡龍「鏡としての歴史」『日本で日本人に語った「韓生」と「韓心」と「韓魂」の公共哲学物語り』（図書出版モシヌン・サラムドゥル、2012年）
- 片岡龍「二宮尊徳の公共実践」『アリストテレスと儒学の哲学対話』（国立台湾大学、2012年）
- 片岡龍「自然の暴力と日本人の心理世界」『憤怒の二つの顔—韓日文化比較研究一』（檀国大学校日本研究所・慶熙大学校非暴力研究所、2012年）
- 片岡龍「多様な生命との新鮮な出会い」『一韓民学者の初めて接した日本の彼方此方』（樹福書院、2012年）
- 片岡龍「14世紀末から16世紀半ばにおける「公共」の用例の検討—『朝鮮王朝実録』と『韓国文集叢刊』を中心に—」『韓国と日本の公共意識比較研究』（韓国学中央研究院、2012年）
- 片岡龍「「思想史」の水路をつけかえるために」『植民地時代の文化と教育—朝鮮・台湾—』（東北大学出版会、2013年）
- 片岡龍「『朝鮮王朝実録』に見える「公共」の用例の検討」（『国際日本学研究会叢書18 相互探求としての国際日本学研究—日中韓文化関係の諸相—』（法政

- 大学国際日本学研究センター、2013年)
- 片岡龍「「憲法十七条」の「和」を読み直す」『グローバル時代の東アジア平和思想』（東日本国際大学、2013年）
- 片岡龍「天の秩序と東アジア思想」『岩波講座日本の思想4 自然と人為——「自然」観の変容』（岩波書店、2013年刊行予定）
- 富樫進「雷電の声と将門の悪——『将門記』をめぐる——」（古代文学会編『古代文学』52、2013年3月、127～134頁）
- 富樫進「毘廬遮那如来への〈みち〉——空海の言語観をめぐる——」（日本思想史学会編『日本思想史学』45、2013年9月刊行予定）
- 桐原健真「「常州水府の学」としての水戸学——会沢正志斎を中心に」、地方史研究協議会編『茨城の歴史的環境と地域形成』雄山閣、2009年10月、91～110頁
- 桐原健真「超脱の思想——小楠・松陰そして龍馬」、岩下哲典・小美濃清明編『龍馬の世界認識』藤原書店、2010年02月、95～114頁
- 桐原健真「19世紀東アジアと「帝国」日本」、『京都産業大学世界問題研究所紀要』25号、2010年03月、116～128頁
- 桐原健真「河口慧海——求法の道の終着点」、小川原正道編『近代日本の仏教者』慶應義塾大学出版会、2010年04月、245～275頁
- 桐原健真「「帝国」の思想」、吉田忠編『19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究』財団法人国際高等研究所、2010年06月25日、111～128頁
- 桐原健真「幕末維新时期尊攘論における国際社会認識の転回——「帝国」言説をめぐる——」、韓日文化交流基金・東北亜歴史財団編『19101910년—그 이전 100년 : 한국과 일본의 서양문명수용 (1910年—その以前の100年 : 韓国と日本の西洋文明受容)』ソウル・景仁文化社、3～53頁、内3～28頁韓国語訳。
- 桐原健真「「第三の開国」とはなにか？ : 戦後日本における自他認識の転回(1945～1980)」『文化』74巻3号、1～20頁、2011年
- 森川多聞「南原繁の「個人」——フィヒテ的「宗教」理解をめぐる——」（『日本思想史研究』45号、2013年度刊行予定。

## 1-2 著書・編著

- 佐藤弘夫『死の機能 前方後円墳とは何か』（共著）岩田書院、2009年。

- 佐藤弘夫『日本文化論キーワード』（共編）有斐閣、2009年。
- 佐藤弘夫『韓国語版 概説日本思想史』ノンヒョン社、2010年。
- 佐藤弘夫『日本中世の国家と仏教』歴史文化セレクション、吉川弘文館、2010年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史11 日本仏教の礎』（共編）佼成出版社、2010年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史12 躍動する中世仏教』（共編）佼成出版社、2010年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史13 民衆仏教の定着』（共編）佼成出版社、2010年。
- 佐藤弘夫『日本列島の死生観（韓国語）』図書出版ムン、2011年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史14 近代国家と仏教』（共編）佼成出版社、2011年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史15 現代仏教の可能性』（共編）佼成出版社、2011年。
- 佐藤弘夫『ヒトガミ信仰の系譜』岩田書院、2012年。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 1 古代』（共編）、ペリかん社、2012年。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 2 中世』（共編）、ペリかん社、2012年。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 3 近世』（共編）、ペリかん社、2012年。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 4 近代』（共編）、ペリかん社、2013年。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 1』（共編）、2013年。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 2』（共編）、2013年。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 4』（共編）、2013年。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 6』（共編）、2013年。
- 片岡龍『近代東アジア知識人の生と学問』（共編）成均館大学出版部、2009年
- 片岡龍『江戸時代日本漢学研究諸方面：思想文化篇』（共編）、国立台湾大学出版中心、2009年。
- 片岡龍 韓日交流誌『STESSA』vol.8、2010年3月
- 片岡龍『公共する人間 1 伊藤仁斎』（共編）東京大学出版会、2011年1月
- 片岡龍『公共する人間 2 石田梅岩』（共編）東京大学出版会、2011年10月
- 片岡龍『ともに学びあう山田方谷・譚嗣同・崔漢綺 東アジアから世界へ』（共編）樹福書院、2012年6月
- 片岡龍『現代に生きる安藤昌益』（共編）、お茶の水書房、2012年
- 富樫進『奈良仏教と古代社会——鑑真門流を中心に——』東北大学出版会、2012年6月。
- 桐原健真『吉田松陰の思想と行動—幕末日本における自他認識の転回—』東北大学出版会、2009年6月
- 桐原健真編『東北大学臨床死生学研究会研究報告』東北大学臨床死生学研究会、2010



年 10 月

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 佐藤弘夫「福神座談会：高木豊著『日蓮攷』『中世日蓮教団史攷』をめぐって」  
『福神』三一書房、13号、2009年.
- 佐藤弘夫「書評：末木文美士著『鎌倉仏教展開論』」『宗教研究』83巻1号、2009年.
- 佐藤弘夫「日本思想史学」他『日本思想史辞典』山川出版社、2009年.
- 佐藤弘夫「霊と身体—タマ・ミ・カラ」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「伊勢神宮と出雲大社」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「権現と本地垂迹」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「盆と正月—先祖霊と再生」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「祭り—神様とのつき合い」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「ケガレとハラエ」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「成仏する草木—日本の自然観」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「断罪される進歩史観—網野善彦『「日本」とは何か』」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年.
- 佐藤弘夫「入学試験制度の改革」『東北大学百年史 通史2』2009年
- 佐藤弘夫「書評：松尾剛次『破戒と男色の仏教史』」『中外日報』1月24日号、2009年.
- 佐藤弘夫「書評：菊地大樹著『中世仏教の原形と展開』」『史学雑誌』118巻1号、2009年.
- 佐藤弘夫「〈聖なるもの〉をどう捉えるか」『検証 網野善彦の歴史学』岩田書院、2009年.
- 佐藤弘夫「書評：ルチア・ドルチェ、松本郁代編『儀礼の力』」『週刊読書人』2847号、2010年.
- 佐藤弘夫「親鸞とその時代」『無限洞』6号、2010年.
- 佐藤弘夫「再生する親鸞—今村親鸞論の位置」『無限洞』7号、2010年.
- 佐藤弘夫「今に問う言葉」3回連載『読売新聞』2010年.

佐藤弘夫「「ヒトガミ信仰」の系譜」『金光教学』50号、2010年.

Sato Hiroo “Review: Lucia Dolce, Matsumoto Ikuyo, eds., The Power of Ritual”

*CSJR Newsletter*, 20-21, 2010年.

佐藤弘夫「死者と出会う場所」『生と死への問い』東北大学出版会、2011年.

佐藤弘夫「死者からのまなざし—生きること・生かされること」『今を生きる 1. 人間として』東北大学出版会、2012年.

佐藤弘夫「時を湛えた空間—歴史学における「空間」の発見」『建築遺産 保存と再生の思考』東北大学出版会、2012年.

佐藤弘夫「書評：伊藤聡著『中世天照大神信仰の研究』」『日本歴史』764、2012年.

佐藤弘夫「魯迅のいた日」『東北大学史料館だより』17、2012年

佐藤弘夫「書評：磯前順一著『宗教概念あるいは宗教学の死』」『図書新聞』3085、2012年.

佐藤弘夫「日蓮聖人真蹟の観照」『日蓮聖人と法華の至宝』2、同朋舎メディアプラン、2012年.

佐藤弘夫「災害は天罰か」『寺門興隆』2013年1月号、2013年.

佐藤弘夫「死者とどう生きるか」『寺門興隆』2013年2月号、2013年.

佐藤弘夫「親鸞の作った偽書」『「偽」なるものの「射程」』勉誠出版、2013年.

佐藤弘夫「幽霊の誕生—変転する死者と社会との関わり」

『日本史の方法』10、2013年.

片岡龍「書評／松田宏一郎著『江戸の知識から明治の政治へ』」『日本歴史』734、2009年

片岡龍「書評：立岩真也・尾藤廣喜・岡本厚『生存権 いまを生きるあなたに』」『図書新聞』2932号、2009年9月5日

片岡龍「伊藤仁斎の「哲学」を東アジアから、世界の「公共」のために再読する」『公共的良識人』222号、2010年5月1日

片岡龍「私たちはどのようなときに道徳的行為者となるのか」『公共的良識人』227号、2010年10月1日

片岡龍「儒学・儒教は日中韓をむすび・つなぎ・いかすことができるのか」『公共的良識人』228号、2010年11月1日

片岡龍「自己実現（満足）から自他の幸福共創（共福）へ」『公共的良識人』229号、2010年12月1日

- 片岡龍「東北から誠意をこめて」『公共的良識人』234号、2011年5月1日
- 片岡龍「東日本の複合災害と「東学的ソンビ」の開關志向」『公共的良識人』236号、2011年7月1日
- 片岡龍「人間観・経営観・幸福観の「良心」を軸としたパラダイム転換を」『公共的良識人』239号、2011年10月1日
- 片岡龍「何故日韓で『論語』と『荘子』を語りあうのか」『公共的良識人』240号、2011年11月1日
- 片岡龍「絶望の向こうに希望を」『中日新聞』夕刊、2011年10月28日
- 片岡龍「「敬」を学んだ二つの旅」『公共的良識人』241号、2011年12月1日
- 片岡龍「震災と尊徳、そして希望への道」『公共的良識人』242号、2012年1月1日
- 片岡龍「悲しみを抱えて生きる」『世界』829号、2012年4月1日
- 片岡龍「除災祈福の公共哲学に参加して」『公共的良識人』245号、2012年4月1日
- 片岡龍「世代継承生生する歴史を生かし直す」『公共的良識人』246号、2012年5月1日
- 片岡龍「将来世代観点から東アジアの思想を受け取りなおす」『公共的良識人』247号、2012年6月1日
- 片岡龍「安藤昌益は大阪でどう語られたか」『公共的良識人』248号、2012年7月1日
- 片岡龍「南里有隣『真教十要』解説と翻刻」『日本思想史研究』44号、2012年3月。
- 片岡龍「間からつなぐ幸福」『公共的良識人』253号、2012年12月1日
- 片岡龍「生き残ってしまったものの責務」『いわきから問う東日本大震災 フクシマの復興と日本の将来』昌平鬘出版会、2013年6月
- 片岡龍・ジョナサン・モリス・李月珊（共訳）ジェームズ・マクマレン（著）「荻生徂徠・松平定信と寛政期の孔子崇拜」（『日本思想史研究』45、2013年度刊行予定）。
- 大川真『日本思想史事典』（年表近世部担当）、山川出版社、2009年4月、大川真「山鹿素行」、「貝原益軒」、「山崎闇斎」、「新井白石」、「天皇と幕府・政府—権威と権力」の項担当執筆。遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編『日本文化論キーワード』74-75,147-148,150-151（有斐閣アカデミア、2009年4月）

- 大川真「回顧と展望」（2008年近世、思想編）（『史学雑誌』118-5、2009年5月、8  
27-830頁）
- 大川真、永井隆之ほか編『検証網野義彦の歴史学』全体討論（司会）（岩田書院、2009  
年9月）、ディスカッションのため本人執筆部析出不可能。
- 大川真「オランダにおける日本研究の現状と資料調査の報告、2010年3月25日、  
『年報日本思想史』9号、日本思想史研究会、pp.34-35
- 大川真 渡辺浩著「日本政治思想史 十七世紀～十九世紀」、2010年5月7日 『週  
刊読書人』2837号。
- 大川真「新井白石と正徳の治」、「荻生徂徠と古学」、「『葉隠』『五輪書』と武  
士道」、「富永仲基の大乗非仏論」（『大法輪』（特集日本の仏教と日本の思  
想）、pp.77-9、pp.89-91,93、大法輪閣、2010年9月1日）
- 大川真「学びの場のこれから—シンポジウム「近世の旅と名所」を終えて—」、単  
著、査読有、2011年3月25日、『年報日本思想史』10号、日本思想史研究会
- 桐原健真「藤田大誠著『近代国学の研究』」、「『明治維新史研究』、2009年、  
63～66頁
- 桐原健真「専応口伝——日本的美意識の誕生」（143頁）・「政談——日本にお  
ける政治的人間の模索」（153頁）・「翁の文——文化類型的日本論の先駆」  
（154頁）・「南総里見八犬伝——近世日本における伝奇小説の最高峰」（157  
頁）・「国意考——自然調和型日本観の成立」（156頁）・「古事記伝——  
「漢意」と「古意」」（158頁）・「東海道四谷怪談——義理人情の表と裏」  
（159頁）・「真善美日本人——冷徹なナショナリストの自己分析」（168  
～169頁）・「『思想の科学』——多元主義の知識人たち」（184～185頁）・  
「タブーへの挑戦と戦後歴史学——江上波夫『騎馬民族国家』1967年」（188  
～189頁）・「近代における漢字と漢文——子安宣邦『漢字論』2003年」（232  
～233頁）、遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編『日本文化論キーワード』有斐  
閣、2009年（計11項目）
- 桐原健真「8章 “あの世、はどこへ行ったか」（諸岡了介との共同執筆）・「9  
章 日本人の死生と自然」・「コラム 病院の思想」、清水哲郎監修・岡部  
健／竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか——現場から考える死生学』弓箭  
書院、2009年
- 桐原健真「世界的眼孔・松陰と小楠の国際社会認識——近代国家間システムを超  
越する思想」、『別冊・環（17）：横井小楠 1809-1869 「公共」の先駆  
者』藤原書店、2009年11月、170～174頁
- 桐原健真「日本思想史系データベースの利用とその現状」、『日本歴史』（2010  
年1月号：740、101～103頁

桐原健真「書評：布引敏雄著『長州藩維新団—明治維新の水平軸』」、『部落解放』2010年3月号、70～73頁

中村義・久保田文次・陶徳民・藤井昇三・川邊雄大・町泉寿郎編『近代日中関係史人名辞典』東京堂出版、2010年7月、（小牧昌業・本田成之・河口慧海・能海寛）

桐原健真「「情報の海」を越えて——吉田陰の情報との向き合い方に学ぶ」『人間会議』2011年6月、夏号56～61頁

トマス・ツイード著（桐原健真、オリオン・クラウタウ共訳）「米国オカルティズムと日本仏教—A・J・エドマンズと鈴木大拙、そしてトランスロカティブな歴史叙述」、『年報日本思想史』11号、2012年、1～31頁

桐原健真「「開国物語」を解体する」藤原書店『環』50号、2012年、436～439頁

#### 1-4 口頭発表

##### (1) 国際学会

佐藤弘夫「大学院生のための日本学国際交流プログラム—その可能性と課題」国際会議、関西大学、2010年1月。

佐藤弘夫「「日本思想」は存在するか」国際シンポジウム・東アジアの思想と対話—国境・テキスト・礼楽、嶺南大学、韓国、2010年11月。

佐藤弘夫「中世「仏教」文明の形成と君主権」国際シンポジウム・君主権の構築と「仏教」文明、早稲田大学、2010年12月。

Hiroo Sato “Transition of the View of Mountains in Japan” International Conference on Arts and Humanities 2011, USA, 2011年1月。

佐藤弘夫「彼岸に誘う神—日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン」国際シンポジウム・イメージとヴィジョン 東西比較の試み、東京大学、2011年2月。

Hiroo Sato “The Destination of the Dead” 国際シンポジウム・Combinatory Practices in Japan: Rethinking Religious Syncretism, University of London, UK, 2011年2月。

佐藤弘夫「東北アジアにおける多文化共生の伝統」国際シンポジウム・東北アジアにおける多文化共生、内モンゴル大学、中国、2011年8月。

Hiroo Sato “The Dead, The Living, The Gods as the Driving Forces of History” EAJS International Conference, Tallinn University, Estonia, 2011年8月。

佐藤弘夫「仏教文化と死生観」東明大学校講演会、東明大学校、韓国、2011年11月。

佐藤弘夫「日本列島の死生観の歴史」大韓日語日文学会国際学術発表会、新羅大学校、韓国、2011年11月。

Hiroo Sato “The Birth of the Ghosts” カリフォルニア大学セントバーバラ校講演会、USA、2012年2月。

佐藤弘夫「蛇形のアマテラス—日本列島におけるカミの誕生と変貌」東亜道文化国際学術研究会、北京大学、中国、2012年7月。

佐藤弘夫「日本列島における幽霊の発生」シンポジウム「東アジアにおける宗教と文化」、台湾国立政治大学、2012年10月

佐藤弘夫「幽霊の誕生- 怪談から見直す日本文化論」東アジア日本研究フォーラム、中国社会科学院、2012年11月

Hiroo Sato “The Birth of the Ghosts in Japanese Horror Culture”

International Conference on Arts and Humanities 2013, USA, 2013年1月.

片岡龍「石田梅岩から考える「公共する」実践」第97回公共哲学京都フォーラム  
大阪リーガロイヤルホテル「公共する人間としての石田梅岩を日中韓で語り合う」2010. 7. 25

片岡龍「「礼楽」の開く公共世界 — 荻生徂徠の思想から—」第97回公共哲学京都フォーラム大阪リーガロイヤルホテル「儒学(儒教)の開く公共世界」2010. 9. 11

片岡龍「韓日思想架橋：伊藤仁斎と丁茶山の間から」世界と相通する慶北正体性国際フォーラム、韓国学振興院(韓国・安東)、2011. 6. 3

片岡龍「日本における『論語』の読まれ方 — 伊藤仁斎(京都)・荻生徂徠(江戸)・照井一宅(盛岡)・下村湖人(佐賀)を中心に—」第105回公共哲学京都フォーラム「論語と荘子のあわい」京都リーガロイヤルホテル2011. 9. 18

片岡龍「『論語』在日本的解読」第4回中韓日国際学術シンポジウム、山東大学文史哲研究院、2011. 10. 26-29

片岡龍「公共する人間としての二宮尊徳」第106回公共哲学京都フォーラム「二宮尊徳を日中韓でともに語りあう」神戸ポートピアホテル、2011. 11. 27

片岡龍「安藤昌益における危機に立ち向かう主体」第110回公共哲学京都フォーラム「東アジアにおける公共する人間としての安藤昌益を日中韓で語りあう」樹福書院会議室(大阪)、2012. 7. 15

片岡龍「二宮尊徳の公共実践」東アジア共通善の探求国際学術研究会「アリストテレスと儒学の哲学対話」、国立台湾大学水源校区哲学系館301会議室(台北)、2012. 10. 6

片岡龍「自然の暴力と日本人の心理世界」檀国大学校日本研究所・慶熙大学校非暴力研究所主催「韓日国際学術シンポジウム 憤怒の二つの顔—韓日文化比較研究—」、慶熙大学校中央図書館視聴覚室(ソウル)2012、11. 3

片岡龍「『朝鮮王朝実録』に見える「公共」の用例の検討」韓国倫理教育学会国際学術大会「東西洋の公共幸福と倫理教育」忠北大学校開新文化館(チョンジュ)、2012、11. 15

片岡龍「14世紀末から16世紀半ばにおける「公共」の用例の検討—『朝鮮王朝実録』と『韓国文集叢刊』を中心に—」公共意識国際学会「韓国と日本の公共意識比較研究」、国立古宮博物館大講堂（ソウル）、2012. 11. 21

片岡龍「「憲法十七条」の「和」を読み直す」第五回日中韓国際学術シンポジウム「グローバル時代の東アジア平和思想」、東日本国際大学（いわき）、2012. 6. 23

Okawa Makoto Kishin, “Shinto and Reigaku in the Middle-Edo Period”(Perspectives on Religion and Ritual in Early Modern Japan, Organized by Leiden Institute for Area Studies), 2009年6月。

大川真, 松平定信之《大學》釋義（台湾大学主催国際シンポジウム「東アジアの儒学と日本」）, 台北, 2009年9月26日。

桐原健真「幕末維新时期尊攘論における国際社会認識の転回——「帝国」言説をめぐって」、韓日文化交流基金／東北亜歴史財団主催「1910年、その以前の100年：韓国と日本の西洋文明受容」（於大韓民国仁川市・パラダイスホテル、2010年6月12日～13日）

桐原健真「The Quest for Mahayana: Kawaguchi Ekai and the Buddha's “Golden Words”」、International Association for the History of Religions「パネルセッション：Rethinking Japanese Buddhism: Kawaguchi Ekai and Murakami Sensho」、カナダ・トロント大学、2010年08月20日

桐原健真「他者としての「中国」研究——近代日本における学知の形成」、嶺南大学校中国学研究センター・東北大学大学院日本思想史研究室共同開催国際シンポジウム「東アジアの思想と対話：国境・テキスト・礼楽」・パネルセッション「日本における中国研究の現況」（於大韓民国慶山市・嶺南大学校、2010年11月20日）

## （2）国内学会

佐藤弘夫「ヒトガミ信仰の系譜」金光教教学研究所第42回教学研究会基調講演、金光教教学研究所、2009年9月8日。

佐藤弘夫「近代の歴史学と『立正安国論』」シンポジウム：近現代における国家と宗教—『立正安国論』をめぐって、立正大学、2009年6月5日。

佐藤弘夫「西行における「山」と救済」第一回西行学会大会シンポジウム、國學院大學、2009年8月30日。

佐藤弘夫「ヒトガミの誕生—日本列島における死者供養の淵源」日本宗教学会第68回学術大会、京都大学、2009年9月12日。

- 佐藤弘夫「崇る神から罰する神へ」土井道子記念京都哲学基金シンポジウム：神道と日本の神々、京都大学、2009年9月28日。
- 佐藤弘夫「『蒙古の調伏者』日蓮像の形成」シンポジウム：予言と調伏のかたち、京都国立博物館、2009年10月23日。
- 佐藤弘夫「日本文化と放浪の系譜」日本映像民俗の会シンポジウム：放浪の系譜—空也から井月まで、伊那市、2009年12月25日。
- 佐藤弘夫「島の魅力—ああ、松島や」地中海トーキング、地中海学会、東北大学、2010年、6月19日。
- 佐藤弘夫「再生する親鸞—今村親鸞論の位置」シンポジウム：今村社会哲学と仏教—『親鸞と学的精神』をめぐって、仙台、2010年7月8日。
- 佐藤弘夫「シンポジウム：神と王の呪縛・コメント」東北中世史サマーシンポジウム：神と王の呪縛—人々を統合するもの、仙台、2010年8月29日。
- 佐藤弘夫「シンポジウム：近代日本の宗教・コメント」日本思想史学会大会シンポジウム：近代日本の宗教—仏教を中心に、岡山大学、2010年10月16日。
- 佐藤弘夫「生と死のあいだ—看取り・葬儀・供養」多文化フォーラム：多文化からみた死と看取り、仙台、2010年11月28日。
- 佐藤弘夫「幽霊の誕生—江戸時代における死者供養の変容」日本宗教学会第70回学術大会、2011年9月3日。
- 佐藤弘夫「神・彼岸・コスモロジー—歴史学における「空間」の発見」シンポジウム：空間を記述せよ—方法・史料・表象をめぐって」東北大学、2011年9月7日。
- 佐藤弘夫「論理・精神・コスモロジー—日本の神・再考」土井道子記念京都哲学基金主催シンポジウム、2011年12月。
- 佐藤弘夫「パネル：戦後日本仏教学説の課題・コメント」日本宗教学会第71回学術大会、2012年9月9日。
- 佐藤弘夫「幽霊の誕生—変転する死者と生者とのかかわり」シンポジウム「死と社会」奈良女子大学、2012年12月8日。
- 佐藤弘夫「神・人・死者—日本列島における多文化共生の伝統」北海学園大学人文学部開設20周年記念シンポジウム、2013年5月18日。
- 片岡龍「植民地大学の学術の特色をどのように捉えるか—京城帝国大学を中心に—」国際日本文化研究センター共同研究会「帝国と高等教育—東アジアの文脈」2010年度第6回研究会、東京大学教養学部2号館5階会議室、2011. 2.



片岡龍「東北から、災害に向きあう新たな人間像を考える」第104回公共哲学京都フォーラム「東日本大震災を公共哲学する」神戸ポートピアホテル 2011. 8.

22

大川真,松平定信の政治思想, 2009年10月3日, 東北史学会 2009年度大会,日本近世近代部会。

大川真,シンポジウム「近世の旅と名所」(コーディネイターおよび司会), 米沢女子短期大学, 2010年3月。

大川真, 尊皇攘夷とお岩さん—日本近代のナショナリズムとスピリチュアリズム—, 2010年3月27日, 東アジア恠異学会第63回例会

大川真, 執拗くなる怨霊—江戸時代における憑霊と怨霊との対話—, 2010年5月20日, 第6回東北シャマニズム研究会, 東北大学。

大川真「江戸のつぶれ家」、2010年11月9日、空間史学研究会第1回大会、東北大学。

大川真「明治元年における天台宗——鳥取大雲院所蔵「慶応四年 朝政御一新ニ付 延暦寺建言」をめぐって——」、2010年12月、科学研究補助金 基盤研究B「東照宮祭祀の確立と展開」(研究代表者: 曾根原理) 研究報告会、於東京。

富樫進「最澄の不空受容」あたらしい古代史の会6月例会、2012年6月23日、東京都世田谷区・成城大学。

富樫進「インドの発見と仏教東漸——不空仏教の受容を中心に——」日本思想史学会 2012年度大会、2012年10月28日、愛媛県松山市・愛媛大学。

富樫進「最澄門流における嵯峨天皇の位置づけ——比叡山造鐘説話をめぐって——」寺社縁起の研究・研究例会、2013年7月23日、東京都世田谷区・成城大学。

桐原健真「幕末における『帝国』」、幕末史研究会、2009年6月27日、武蔵野市・武蔵野商工会館

桐原健真「『帝国』日本から『大日本帝国』へ」、「20世紀と日本」研究会、2009年8月8日、和歌山市・ホテルグランヴィア和歌山

桐原健真「直線と円環——日本思想における生死」(患者のウェル・リビングを考える会&タナトロジー研究会「リビングウィル シンポジウム: どう生き どう死ぬか—現場から考える死生学—」2009年09月26日・於神戸市・神戸市立総合福祉センター)

桐原健真「あこがれ」としての病院信仰(日本思想史学会 2009年度大会「パネルセッション1 在宅ホスピスの現場における日本思想史研究の可能性〜「病

院死」を選択する日本人～」、2009年09月18日、仙台市・東北大学)  
桐原健真「「あの世」はどこに行ったか——日本知識人における彼岸の構図」(三都の会、最終回、2010年3月11日(木)、豊島区・大正大学巣鴨校舎総合  
佛教研究所)  
桐原健真「世界観闘争としての真宗護法論」(日本思想史学会2010年大会・パネ  
ルセッション3「近代仏教と真宗の問題」、2010年10月17日、岡山市・  
岡山大学)  
桐原健真「護法・護国・夷狄」(日本思想史学会2011年度大会・パネルセッショ  
ン「幕末維新期の護法思想・再考」、2011年10月30日、東京都豊島区・学  
習院大学)

## 2 教員の受賞歴 (2009～2013年度)

桐原健真「第4回日本思想史学会奨励賞(2010年度)」受賞(受賞理由:桐原健  
真『吉田松陰の思想と行動——幕末日本における自他認識の転回』東北大学  
出版会、2009年)

## IV 教員による競争的資金獲得 (2009～2013年度)

### (1) 科学研究費補助金

佐藤弘夫(研究代表者)基盤研究(C)「板碑を素材とする思想史研究の新たな  
領域と方法の開拓」2008～2010年度、388万円  
佐藤弘夫(研究分担者)基盤研究(B)(研究代表者中村生雄)「「供養の文化」  
の比較研究を通して見る「死」の表象の形成過程とその現代的変容」2007  
年度～2009年度  
佐藤弘夫(研究分担者)基盤研究(B)(研究代表者大淵憲一)「現代日本人の  
価値観:古層と伝統的思想の影響」2010～2012年度、  
佐藤弘夫(研究代表者)基盤研究(C)「石塔と金石文を素材とする思想史研究  
の新たな領域と方法の開拓」2011～2013年度、507万円  
佐藤弘夫(研究代表者)特別研究員奨励費「近代における「日本仏教」論の形成  
と展開」2010～2011年度、150万円  
佐藤弘夫(研究分担者)挑戦的萌芽(研究代表者中西裕二)「フォークロア・ハ  
ラトクスを止揚する」2012～2014年度、377万円  
佐藤弘夫(代表者)二国間交流事業共同研究/セミナー「介護と看取りの現場に  
根ざす新たな思想史・文化史研究の構築」2013年度、  
片岡龍(研究代表者)挑戦萌芽研究「「図説」と「書画」の分析・比較による近世  
思想史研究領域の拡大と深化」2009～2011年度、270万円  
大川真(研究分担者)基盤研究(B)「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」(研究代  
表者曾根原理、2008年～2010年度。

大川真（研究代表者）若手研究（スタートアップ）「18世紀後期日本における近代的国家論の思想史的研究」（課題番号 20820005）、2008～2009年度、1560千円。

富樫進（研究代表者）若手研究（B）「日本古代における戒律思想の定着と発展」（課題番号 24720034）、2012～2013年度、232万円。

桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本思想史文献データベース検索」、2006年度～、90万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「現代日本の死生観の発掘と倫理的基礎づけ——在宅ホスピスの現場との連携を通して」（竹之内裕文代表）、2008年～2010年度、70万円

桐原健真（研究代表者）若手研究（B）「『帝国』の思想史的研究」、2009年度～、300万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（B）「「農」の哲学の構築——学際的な拡がりの中で」（鬼頭秀一代表）、2010年4月採択、25万円（研究分担者）

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「地域社会にみる死生観の現在に関する複合的研究」（諸岡了介代表）、2010年4月採択、80万円（研究分担者）

桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本儒林叢書テキストデータベース」、2011年度～、250万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「幕末維新时期護法論の思想史的研究」（桐原健真代表）、2012年4月採択、208万円（研究代表者）

## （2）その他

桐原健真 2007年度財団法人笹川医学医療研究財団在宅ホスピス緩和ケア研究助成「看取る文化の再構築——在宅ホスピスのための死生観教育プログラムの開発」（竹之内裕文代表）、2007年4月～2010年度、10万円

桐原健真 2007年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の確立——歴史的・文化的アプローチに基づいた「死生」観研究とそのアーカイブ化」（桐原健真代表）、2007年～2010年度、200万円

## V 教員による社会貢献（2009～2013年度）

佐藤弘夫

日本学術会議連携会員（2011年10月～）

日本と東アジアの未来を考える委員会（2009年度～）

仙台市博物館協議会委員（2010年度～）

長野県名勝地調査検討委員会（2012年度～）

講演「霊場・城下町・学都—仙台・誕生と変貌の軌跡」みやぎ県民大学、2010年9月.

講演「死者に出会う場所」奈良歴史学入門講座、奈良女子大学、2011年6月.

講演「幽霊の誕生」高大連携講演会（仙合一高）、2011年11月.

講演「幽霊の誕生」東北大学105周年関西交流会、2012年2月.

講演「江戸時代の幽霊にみる死生観」東洋英和女学院大学死生学研究所連続講座、2012年6月.

講演「学校の怪談—怪異の起こる〈場〉」高大連携講演会（仙合一高）、2012年11月.

講演「仙台歴史散歩—仙台以前の仙台を歩く」仙台明治青年大学、2012年12月.

講演「親鸞の神祇観—神祇不拝と神仏習合」真宗文化センター講演会、2103年4月.

講演「幽霊の誕生」斎理蔵の講座、2013年6月.

講演「近江の霊場と信仰世界」仙台市立博物館講演会、2013年8月.

片岡龍

講演「リメンバー・ウーマンリブ！」東北大学文学部斎理講座、2010年7月

講座「日本人の幸福思想①」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2011, 9, 3

講座「日本人の幸福思想②」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2011, 10, 1

講座「日本人の幸福思想③」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2011, 11, 5

講座「日本人の幸福思想④」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2012, 1, 21

講座「日本人の幸福思想⑤」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2012, 2, 21

講演「震災から1年、フクシマの復興と日本の将来」東日本国際大学学術シンポジウム、東日本国際大学附属昌平中学校・高等学校体育館、2012, 3, 10

講座「日本人の幸福思想⑥」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2012, 3, 24

講座「将来世代観点からみた樹福実学①②」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 4. 23

講座「将来世代観点からみた樹福実学③④」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 5. 26

講座「将来世代観点からみた樹福実学⑤⑥」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 6. 23

講座「将来世代観点から幸福を考える①②」樹福実学共働学習会、樹福書院

- 会議室（大阪）2012. 7. 21
- 講座「将来世代観点から幸福を考える③④」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2012. 8. 30
- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑤⑥」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2012. 9. 2
- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑦⑧」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2012. 10. 30
- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑨⑩」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2012. 11. 13
- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑪⑫」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2012. 12. 12
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅①」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 1. 13
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅②」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 2. 26
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅③」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 3. 23
- 講演「敬天愛人」を日中韓で公共する」第3回京都フォーラム実践部会、  
中之島センタービル（大阪）、2013. 4. 6
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅④」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 4. 19
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅⑤」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 5. 25
- 講演「日中韓を架橋する人材を共に育む必要性」西安外大（西安）、  
2012. 6. 5
- 講演「陽明学をともに実心・実学・実践する」第3回京都フォーラム実践部会、  
中之島センタービル（大阪）、2013. 6. 15
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅⑥」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 6. 17
- 講演「日中韓を架橋する人材を共に育む必要性」西安外大（西安）、2012. 6. 5
- 講座「媒介能力を伸ばしあう「練習」①」樹福実学共働学習会、樹福書院  
会議室（大阪）2013. 7. 22

講演「石田梅岩における<生きる技術>」第二回 100 年隆盛する事業の創造と承継講座「石田梅岩の思想と日本企業」、盛和塾(大阪)、2013. 7. 23

#### 大川真

吉野作造記念館(NPO 法人古川学人)主催次世代人材育成研究会事務局を担当、また講師としても参加(宮城県大崎市),2009年8月。

野作造記念館(NPO 法人古川学人)主催次世代人材育成研究会事務局を担当、また講師としても参加(宮城県大崎市),2010年9月。

#### 桐原健真

講演「直線と円環——日本思想における生死」(患者のウェル・リビングを考える会&タナトロジー研究会「リビングウィル シンポジウム: どう生き どう死ぬか—現場から考える死生学—」2009年09月26日・於神戸市・神戸市立総合福祉センター)

講演「あの世はどこへ行ったか」、NPO法人・介護者応援ネットワークみやぎ「介護と看取りのしゃべり場」2010年5月29日、於仙台市・震災復興記念館

講演「死して朽ちず: 吉田松陰の死と生」(財団法人東北多文化アカデミー・多文化講座「介護と看取りのセミナー」2011年03月05日・於仙台市・東北多文化アカデミー)

東日本大震災被災者支援団体「心の相談室」広報担当 2011年05月より現在に至る

市民講座「「あの世」はどこに行ったか」、スマート・エイジングカレッジ、2012年05月11日、仙台市・東北大学スマート・エイジング国際共同研究センター

公益財団法人渋沢栄一記念財団「文化資源館」構想委員会委員、2012年09月より現在に至る

#### 森川多聞

市民講座「近代日本の死生観」スマート・エイジングカレッジ、2013年7月5日、仙台市・東北大学スマート・エイジング国際共同研究センター

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況(2008~2012年度)

#### 佐藤弘夫

日本思想史学会評議員(2007~年度)

日本思想史学会会長(2010年~)

日本文芸研究会委員(2007~年度)

東北史学会評議員(2007~年度)

日本宗教学会評議員（2010年度～）  
 片岡龍  
 日本思想史学会評議員（2008年～）  
 中国社会文化学会評議員（2009～2011年度）  
 一関市芦東山記念館運営委員（2011年～）  
 大川真  
 日本思想史学会事務局幹事（2008年度～2010年度）  
 日本文芸研究会編集委員（2008年度～）  
 富樫進  
 日本文学協会委員（2012年度～）  
 日本文芸研究会大会委員（2012年度～）  
 桐原健真  
 明治維新史学会委員（2000年度～）  
 日本文芸研究会委員（2008年度～2012年度）  
 日本思想史研究会査読委員（2008年度～）

## VII 教員の教育活動（2013年度）

### （1）学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

佐藤弘夫

1学期	日本思想史特論Ⅰ	慈覚大師の足跡
2学期	日本思想史特論Ⅱ	「民衆思想史」再考

片岡龍

1学期	日本思想史特論Ⅲ	近世・近代の思想
2学期	日本思想史特論Ⅳ	東アジアにおける日本思想

藤田正勝

集中講義（1学期）

日本思想史特論Ⅴ	日本哲学史の根本問題
----------	------------

佐藤弘夫・片岡龍

1学期	日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ
2学期	日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ

#### 2 学部授業担当

佐藤弘夫

3セメスター	日本思想史概論	「日本思想史」の課題と方法
5セメスター	日本思想史各論	慈覚大師の足跡

6セメスター	日本思想史各論	「民衆思想史」再考
片岡龍		
4セメスター	日本思想史概論	「日本思想史」の意義と発展
5セメスター	日本思想史各論	近世・近代の思想
6セメスター	日本思想史各論	東アジアにおける日本思想
富樫進		
3セメスター	日本思想史基礎講読	日本思想史文献講読Ⅰ
4セメスター	日本思想史基礎講読	日本思想史文献講読Ⅱ
藤田正勝		
集中講義（5セメスター）		
	日本思想史各論	日本哲学史の根本問題
佐藤弘夫・片岡龍		
5セメスター	日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ
6セメスター	日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ

### 3 共通科目・全学科目授業担当

片岡龍

1セメスター	人文社会科学総論	
	基礎ゼミ 14	東日本大震災からわたしたちの新たな生き方を考える

森川多聞

1セメスター	国際教修ゼミ	近代日本の歴史と思想
2セメスター	国際教修ゼミ	近代日本の歴史と思想

#### (2) 他大学への出講（2009～2013年度）

片岡 龍	東日本国際大学	2012年度
大川 真	米沢女子短期大学	2009・2010年度
富樫 進	東北学院大学（文学部）	2012年度～
富樫 進	東北薬科大学（薬学科）	2013年度
桐原健真	茨城大学（人文学部）	2009・2010年度
桐原健真	尚絅学院大学（人間心理学科）	2011年度
森川多聞	尚絅学院大学（人間心理学科）	2013年度